

戦時中に作られた文部省唱歌「田植」（作曲中山晋平）や「電車ごっこ」、「蛍」、「花火」などの作詞者井上赴は、戦前の小学校一年生の国語教科書「サクラ読本」編集者だった。サクラ読本は、自由な発想と創意が盛りこまれ、従来の教科書のようにハナ、ハトなど単語の羅列ではなく、サクラガサイタのように文章から始まる画期的な教科書と評価されている。

サクラ読本の方針を継承し、井上赴が編集した国民学校用の教科書「アサヒ読本」の見開きのページ。雲海を赤く染めて昇る太陽に向かい万歳をしている子どもたちと子犬の後ろ姿―重画のような情景。ページいっぱい印刷されたアカイ／アカイ／アサヒ／アサヒの文字などを覚えている。

井上赴は皇国史観や国民精神の要素を入れるように求める軍部の強い圧力に屈せず、児童中心主義の原則を貫いた。文部省図書局に派遣された陸軍総監部の佐官クラスとの議論では一歩も引かなかったという。

赴は、明治二六年足立鋏太郎の次男として松江市に生まれる。四歳の時井上家と養子縁組し、同家で育てられる。松江中から一高を経て東大文科を卒業後七高教授に。大正一〇年文部省図書監修官に就任して、以来二〇年にわたって国語と唱歌の教科書編集に従事する。昭和一九年図書局の廃止に抗議して文部省を辞職する。戦後、島根県選出の衆院議員を一期勤めた。

赴の実父鋏太郎は、慶応三年松江藩士として生まれ、島根師範学校卒業後、中学校師範学校教員検定に合格し、新潟中学や長野中学の教諭に転任する。明治三九年、新設の長野県飯山中学の初代校長に就任、校歌制定など同校の基礎を作る。飯山中学は戦後の学制改革により飯山北高校になり、平成一五年創立百年を迎えた。同三〇年に飯山市内の二校と統合し飯山高校として発足した。飯山中学―飯山北高校時代を通して歌われてきた初代校長足立鋏太郎作詞の校歌「甲斐の高嶺に」に代わって新しい校歌が制定されたという。